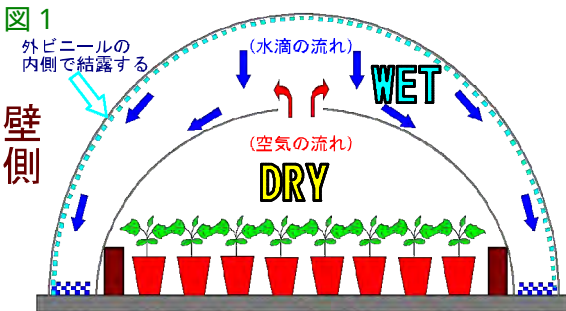


2重トンネル方式による育苗

従来より「苗半作」といわれるように、苗作りの結果はその後の栽培にも大きく影響します。そのため、育苗期の環境にかかわらず、できるだけ安定していい苗を得られるようにしなくてはなりません。以下に紹介する2重トンネル方式は、「保温」「除湿」を同時に行えるようにしたものです。

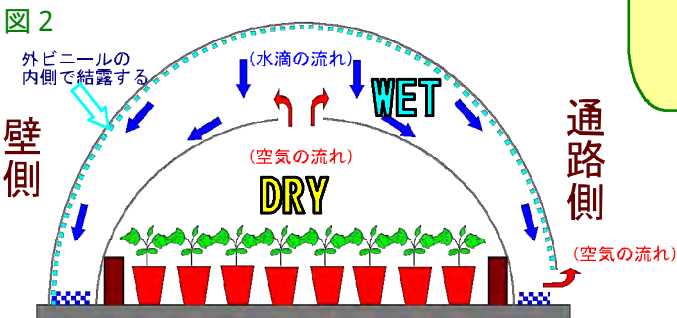


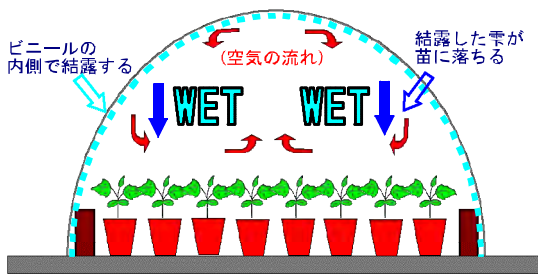
- ・外側は1枚もののビニール・内側はビニール2枚を使用。夜間は内トンネル中央をうすく開けておく (図1)
- ・外気温が上がって、内トンネル内の温度が充分確保できるようになれば外トンネルの通路側をうすく開ける。(図2)
- ・下の写真は裾部分の拡大。見にくいですがビニール内側に水滴が流れている。
- ・これに対しての中トンネルは割合乾燥している。



昼間の日照や電床で鉢土が暖かくなるので、夜間は空気の対流が発生し、水分が外トンネルに結露して落ちることで内トンネル内の湿度が下がる。

(= 徒長防止!!)





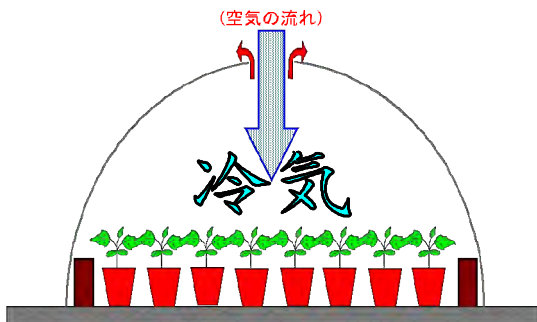
1重トンネルで密閉すると
湿度が抜けない。

夜間の 高温・多湿

徒長!!

1重トンネルで上部をうすく開けると冷気が直接トンネル内に入り込む。

**真下の苗に
低温障害!!**



・晴天日であれば図のように外トンネルを落とし、中トンネルも開けて乾かす。

・ハウス内でも地表近くは意外と温度が低いので、38～40 以上にならないければ、全部開けない方が良い。

最高気温：35～38 / 最低気温：12～13 (晴天日)
地温：15～20

になるように管理する。曇雨天日は湿度が抜けないため、温度をかけると徒長の原因となるので無理に温度をかけない。

一般的によくある徒長の原因として、

朝ハウスを大きく開けて、日中の温度が晴天日でも30 未満しかない。

夜は電床によって20 以上確保されている。

夜間はトンネルを密閉する。

などの操作によって、日中の低温・夜間の高温になっている事があげられる。

また、接木後の養生についても、湿度を保ちながら、なるべく植物体に水滴がつかないように配慮します。葉とビニール・ポリの間が10cm以下になるような低いトンネルをかけるとよいでしょう。35 以上になったらこもやシルバーで遮光しますが、できるだけ光を当てるようにして下さい。

